様式３

学　校　番　号

71

令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立三池工業高等学校（全日制課程）

自己評価

学校運営計画(4月)

学校運営方針		評価（総合）
地域や社会の次世代リーダーとして活躍できる人材を育成するために、校訓である「個性尊重」「自覚努力」「自学自習」「創作工夫」「知恩感謝」の精神を活かしつつ、「ものづくり」をとおして地域や社会の持続的な発展を担う工業人の育成を図る。		A

昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
【成果】 ・基本的生活習慣（皆勤の増加）及び授業規律の確立 ・専門性の高い資格取得の増加及び自学自習の定着 ・ものづくりを中心とした地域貢献活動の実施 ・教育相談の充実と関係機関との連携推進による個に応じた対応の実施 ・進路ガイダンス等の実施による進路指導の充実 【課題】 ・コロナ禍におけるアクティブラーニングの視点に立ったICTを活用した授業改善の推進 ・3観点別による学習評価を行い、育成したい資質・能力により即した授業における指導・評価の改善 ・学校行事の実施形態を工夫し、所属感・連帯感を深める生徒会活動の活性化 ・いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応のための組織的体制の構築 ・「ものづくり」教育、知的財産教育、資格取得をとおした職業教育の充実 ・進路指導ガイダンス、インターンシップの充実によるキャリア教育の推進	1　キャリア教育の充実。	1「生徒一人ひとりの多様な進路実現」に向けたカリキュラムの展開を行い、就職だけでなく公務員や大学進学等への進路指導体制の充実を図る。多様な生徒の可能性を伸ばす指導を充実させることで、生徒一人ひとりの多様な進路に応じた教育を行う。また、大学等との接続についても対応を行う。
	2　ものづくりや知財教育を中心とした「三エブランド化」の推進。	2　課題研究や実習を中心とした「ものづくり」や知財教育をとおした地域貢献を推進するとともに、「三工ならでは」の活動を行う。地域や社会の健全で持続的な発展を担う人材を育成するため、ボランティア活動、ユネスコスクール活動等を充実し、促進する。
	3　授業規律の確立と授業技術を高め、「人を育てる授業」を展開する。	3「鍛ほめ福岡メソッド」の実践を推進し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた「アクティブラーニング」を行い、探求心の向上を行う。 　最先端科学技術の進展・グローバル化・産業構造変化等にともない、必要とされる専門知識・技術も変化及び高度化しているため、教師自らが自己研鑽に励み、ICTを用いた授業づくり、実践学習を通じた学習意欲の向上と維持に努める。そのためには、専門的な技術および知識の定着を行い、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要であり、「課題研究」等の自主的な学習活動をより一層充実させる。
	4　ICTを活用した新たな学習スタイルの確立を図る。	4 生徒1人1台端末及び通信ネットワーク等のICT環境を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることで、生徒一人一人の資質・能力を確実に育成する教育活動の実現を目指す。
	5　修学支援を迅速に進める。	5　転退学を防ぐために「チーム三工」として関係機関と連携し、遅刻や欠席を繰り返す生徒の適切な指導法を協議するとともに、生徒情報を職員会議で適宜報告し組織的対応につなげる。また、担任は学期初めの二者面談や学期終わりの三者面談をとおして生徒理解に努め、生徒の心の変化を見逃さない。なお、「知恩感謝」の念を持ち、いじめや暴力のない安心安全な学校づくりに努める。
	6　組織的な道徳教育の展開。	6　道徳的実践力を高めるため、人としての在り方・生き方を身につける道徳教育を展開する。 「凡事徹底」を図り、当たり前のことを当たり前にやるのではなく、当たり前のことを人には真似できないほど一生懸命やる態度を涵養する。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）				次年度の主な課題
教務部	教務課	ＩＣＴを活用した授業改善の推進・３観点別による学習評価の改善・学力の向上	主体的・対話的で深い学びの視点にたった授業改善を行うことで、学習内容を理解し、資質・能力を身につけさせ、観点別評価による学習評価の改善を図る。	B	B	B	A	授業改善では、授業アンケートを活用し、各教科で分析と改善方策の提出を従来実施しているが、今年度は、AL推進自己評価や啓発通信の発行を行った。アンケートや自己評価によると、ICT機器の活用については、活用状況が昨年度に比べ向上しているが、積極的に使用されている先生とそうでない先生の使用状況に差が出ていることに課題がある。次年度においてもアンケート、AL推進自己評価を活用した課題対策や啓発等を継続していく。観点別評価の導入や授業内容が変化したため、評定と評点の関係、観点別の評価規準の見直しを行った。しかし、生徒向けの評価規準を明確にするのが課題である。次年度はシラバスを作成し、単元ごとの評価規準を示していく。今年度、1・2学期に中間考査を実施してない学年においては、試験範囲が広くなる等の要因により、欠点科目保有者が増えていることは課題である。次年度は、1・2学期に中間考査を全学年で実施し、欠点科目保有者の減少に向けた改善を図っていく。コロナ禍になり、出席停止が増加し、転退学者も増加傾向にあることが課題である。生活アンケートから気になる生徒等を抽出し、担任の先生へ面談を依頼し、状況把握を行い、転退学者の減少に努めていく。 　定期考査の提出方法の見直しや掲示・板書方法の統一を図り、公正確保を行っているため、次年度に生かしたい。前期ジュニアマイスター申請は83名である。年間100名以上を達成し、資格取得の優秀校を目指す。
			情報課・研修課と連携し、アクティブラーニングの視点に立ったＩＣＴを活用した授業改善の推進を図る。	B				
			自学自習・ワンウィークトライアル等の効果的な活用と基礎学力定着の計画及び実施により基礎学力の向上を図る。	B				
			各教科、担任、保護者との協力体制のもと欠点科目保有者に対する丁寧な指導を行い、成績の改善・学力の向上を図り、成績改善を要する者のゼロを目指す。	B				
			課題研究・実習・知財教育を中心とした「ものづくり」や「奉仕活動」を推進し、「地域とともにある学校」を目指す。	B				
		教科指導と生徒指導の支援	「授業を受けるにあたって」の取組みを啓発し授業の規律を行う。	B	B			
			授業アンケートを活用し、授業改善に向けた支援を行う。	A				
			生活アンケートの活用や関係先生方と連携し、転退学者の減少を図る。	B				
		考査・検定の円滑な実施と資格取得の啓発	定期考査の計画・実施を円滑に行い、教室の整備、監督の徹底等を図り、公正確保に努める。	A	B			
			検定試験の計画と実施を円滑に行い、取得状況の把握を行う。	B				
			ジュニアマイスター表彰者数１００名以上を目指す。	B				
	図書課	図書館利用を通して、知に親しむ生徒の育成	図書館をインターネットとは異なる利点を持つ情報の入手経路として位置づけ、昨年以上に授業での活用や日常の来館者の増加を図り、貸し出しの促進のための工夫をする。	A	A	A		生徒が図書館を利用するにあたって、使いやすい・居心地のいい図書館になるよう努めた。閉架図書ならびに閲覧室の図書を整理し、図書が探しやすい・目に留まりやすいレイアウトにすることができた。生徒の興味関心を引く選書に努め、新着図書案内・図書館便りで広報することができた。調べ学習等で近隣の公共図書館や県立図書館に相互貸借をおこない、より充実した深い学びになるよう、サポート体制を整えている。朝の１０分間読書は生徒にとって、読書活動を支える大切な時間であり、今後も継続していきたい。図書委員会活動は、日々のカウンター当番や図書室の環境づくりに貢献している。筑後地区の合同研修会はコロナ禍のため中止になったが、今後とも意欲的に参加できるよう指導していく。展示については行えずにいたので、展示スペースを確保し、月１回更新するよう来年度の目標の１つに掲げたい。
			学習活動に必要な蔵書等の資料を充実させるとともに、公共図書館との相互貸借を活用しレファレンスサービス（資料提供）や広報に努める。	A				
			朝の１０分間読書に継続して取り組み、読書に親しむ雰囲気を醸成する。	A				
			図書委員会活動をサポートし、各種研修会等への積極的な参加を促す。	A				
			社会の出来事や各種記念日などに対応した図書の展示など、レイアウトやイベントの工夫を行う。	B				
	情報課	ＩＣＴを用いた授業の推進のための環境整備	ＩＣＴ機器の活用を職員各自が好きな時に研修できるオンデマンド動画を作成し、提供する。	A	A	A		生徒1人1台端末の導入前に早くから入念な準備をしたため、導入後すぐに適切な運用ができた。また、授業で職員が効果的にICT機器を活用できるように職員向けの研修実施やオンデマンド動画による知識・技能習得を効率良く行うことができた。情報課の業務については、今年度から共有のカレンダーを基にしたシステムを構築したことが大きな成果である。これにより「誰が・いつ・どのような方法で・どこまで業務を行っているか」を可視化し、時間の制約を受けない働き方を実現できた。次年度の主な課題は2点ある。1点目は1人1台端末の更なる活用である。生徒が授業時のみならず、家庭等でも1人1台端末を用いた効果的な学習ができるように職員向けの研修と生徒への情報モラル教育に力を入れる必要がある。2点目は情報セキュリティ委員や教務部全体に情報課の業務を割り振ることである。情報課の業務は専門的な内容が多いが、情報課職員以外でも業務ができるように業務の簡素化を行い、周知していく。
			１生徒１人１台端末・教員用端末等（今年度導入予定）の管理方法の構築を図る。	A				
			生徒１人１台端末・教員用端末等（今年度導入予定）の活用法の研修を行い授業改善を図る。	A				
		校内ネットワークの維持・管理	サーバ内の整理・整頓や、連絡黒板・職員用メール・Google for Education等のさらなる活用など、ネットワークの使いやすい環境を整える。	A	A			
			校務用パソコンやタブレット端末等の保守・管理を円滑に進め、快適なネットワーク環境を維持する。	A				
			情報課の連絡を徹底するため、セキュリティ委員会等を組織再編し、構築を図る。	B				
生徒育成部	生徒指導課	生徒指導 ・自己指導能力の育成 ・いじめ防止への取組の推進	「チーム三工」として生徒に帰属意識を持たせ、チームの一員として自覚める行動がとれるように支援し指導する。	B	B	A	A	生徒指導において、今年度は昨年度と比べて問題行動が多く発生した。生徒の問題行動を見逃さず発見し、指導できたことに関しては良かったが、問題行動を起こさないような環境作りを今後行わなければならないと考える。そのために、立ち止まって挨拶の徹底を原点に返り行う必要性を感じている。そうすることで、少しずつではあるが生徒の自己指導能力の育成に繋がると考える。いじめ防止については、早期対応を取ることができた。今後も未然防止を含め、早期発見・早期対応に努めたい。 　交通指導に関しては、自転車・原付バイクの事故が発生しているので、交通安全の啓発と共に、今後も全職員で協力し、登下校指導を行って行きたい。 　生徒会活動においては、生徒会執行部を中心に主体的運営を図ることができた。次年度においては、各委員会活動の活性化を図りたい。
			あらゆる機会を通して生徒に対し、日常生活の色々な場面で適切な判断をし実行できる力を育成する。	B				
			いじめ問題については、全職員共通理解のもと未然防止・早期発見・早期対応に組織的に取組めるよう推進する。	A				
		交通指導 ・交通安全マナーの徹底 ・保険加入の義務化	登下校指導を計画的に行い、加害者にも被害者にもならないように、生徒への交通安全・マナーの指導を徹底する。	B	A			
			自転車通学者・バイク通学者に対して、自転車・バイクの安全点検や安全運転指導を実施する。	A				
			本校に乗り入れする自転車や通学に利用するバイクにおいては、保険加入率１００％を図る。	A				
		生徒会活動 ・学校行事の工夫・清掃の徹底 ・地域貢献活動の推進	学校行事の実施形態を工夫し、所属感・連帯感を深める生徒会活動の活性化を図る。	A	A			
			清掃委員会を中心に、定期的に強化週間・重点区域を設け、校内清掃の徹底を図る。	B				
			ユネスコスクール加盟校として、持続可能な開発のための地域貢献活動を推進する。	A				
	保健課	健康な心身の育成及び自己管理ができる生徒の育成	すべての先生方で各学年ごと個人面談を年３回実施し、生徒理解を深める。	A	A	A		教育相談を実施し、各学期ごと生徒と面談する機会を作り、悩み相談などしやすい環境を整えた。また、悩みの度合いに応じて、スクールカウンセラーにつなげたり、心の健康相談につなげたりできた。1学期は通級に通う生徒もおり、外部機関と連携して生徒のサポートができた。来年度はさらに生徒の状況をしっかり把握し、生徒たち自身で自己管理ができるよう支援・指導していきたい。 　保健委員会活動に関して、コロナの影響でこの数年間、活動ができない状況であり、委員会活動について経験者がいなくなることで、委員会活動の再開がなかなか難しい状況になっている。クラス内での保健委員の活動の場を少しずつ増やし、換気の声掛けなどで活躍していけるよう促す。 　QRコードを用いた健康観察システムは出来上がっているが、毎日自宅で入力するのを忘れる生徒がまだいるので、地道な啓発が必要である。また薬物乱用防止教育講演会や命の講演会、救急救命講習など実施することができ、次年度も実施する方向で計画したい。
			すべての先生方で各学年ごと個人面談を年３回実施し，生徒理解を深める。	A				
			保健室来室の生徒の状況を把握し，自己管理に向けたアドバイスや適切な指導を行う。	A				
			知りえたすべての情報を基に、各担任やＳＣ、各関係機関と連携を取り、十分なサポートが取れる体制を整える。	A				
		生徒保健委員会の活性化	校内の水質検査・消毒液の補充等，環境衛生面の整備を図ると共に，各種検診での円滑なサポートができるようにする。	A	B			
			委員会活動の充実を図り，リーダーとしての資質育成と学校衛生面への貢献を目指す。	B				
			保健だよりをできるだけ発刊し、感染予防の啓発や季節に応じた注意喚起ができるようにする。	B				
		保健指導、安全指導の充実	ＱＲコードを利用した健康観察システムを活用し，生徒が自らの健康について自己管理できるように指導を行う。	B	A			
			薬物乱用防止講演会・いのちの講演会などの各種講演会を実施し，正しい知識と強い意志，いのちの大切さや他人を尊重する考えを身に付けさせる。	A				
			救急救命講習会を行い、特に部活動における緊急時の対応が誰でも取れるような体制を整える。	A				

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は
A	A：適切である B：概ね適切である C：やや適切である D：不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	1人1台タブレット端末が配置されICT授業を展開できる環境が整い、その活用に向けた取組ができているようです。本年度から実施の学習指導要領に沿った魅力ある授業の展開に心がけていただきたい。観点別評価では、テストだけでなく生徒の意欲や関心など、あらゆる面から生徒一人ひとりの個性や特長を評価することはよいことである。今後も観点別評価を生徒や保護者に周知して、さらに推進してほしい。 　本年度も新型コロナの影響により生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等及び近距離で一斉に大きな声で話す活動に制限があるなど授業計画が難しい中でも、授業アンケートなどから、先生方の授業改善に向けた意識が感じられ丁寧な学習指導がなされている。 「朝の読書」活動や「図書館便り」など本に親しむ工夫や取組がなされている。 　成績処理等については、校務支援システムの導入により今後データ処理や管理をスムーズに実施することで効率的な業務の実施に繋がることができればと思う。また、引き続きクロームブックを活用したペーパーレスや欠席確認等など今後状況に応じた使用を構築され働き方改革に繋げていただければと考える。
A	いじめを含め問題行動等が増加したことは、残念ではあるが、問題行動を見逃さずにしっかりと対応していただいている。特に、いじめ防止については、早期発見・早期対応が求められるので、生徒一人ひとりに向き合い適切な対応を今後も行ってほしい。生徒や保護者等の価値観などの多様化が進んでいるが、規範意識の教育を徹底し、規範意識を身に付けさせることは重要である。今後も生徒一人ひとりに目の行き届いた指導をお願いしたい。 　交通指導については、社会的に自転車や原付バイクでの交通事故が発生していると同時に交通ルールやマナーの悪さが言われていることから交通安全教育の徹底を図っていただきたい。 　生徒会活動については、コロナ禍ではあるが、ロードレースや体育祭を生徒会の企画で実施することができたことは、本当に良かったのではないかと思う。新型コロナウイルスの制限が緩和される傾向にあることから、今後においても生徒たちが自主的に活動できるような環境を作っていただきたい。部活動においても更なる活動の充実意を図ってもらいたい。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）				次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
進路指導部	進路指導課	進路希望の実現	進路指導課で得た情報を担任や科主任等と共有する。また、その情報を基に生徒が進路を実現できるように支援する。	A	A	A	A	今年度の3年生は、就職（学校紹介）内定率99%を達成し（1次合格率は95%で昨年度よりUP）、進学は26名合格したが、公務員は0名（1次合格1名）であった。また、地元優良企業の新規開拓および内定を数社達成できた。 次年度の主な課題は、3年生は就職（学校紹介）内定1次合格率90%以上の継続と学園生等の職種をさらなる増大、進学・公務員受験者の全員合格を目指すために、早めの準備を図っていくことである。SPI試験も含む校外模試を今以上に活用し他校生とも切磋琢磨させたり、テキストを自学に適したものにしたりしてより良いものにする。家庭学習の充実に向けた方策を学科や学年団と連携しながら工夫していく。	A	就職内定率の100%達成に向けて、最後まで生徒の指導やサポートを行ってほしい。公務員の内定者が出なかったことは残念であるが、それを踏まえ次年度に向け、補習の時期や内容など体制づくりを図っていることはよいことである。希望者に対する指導をしっかり行い公務員希望者全員合格を目指してほしい。 キャリアパスポートの活用など、生徒が早期に自分の進路について意識付けができるよう対応してあるので、今後も情報の収集と提供の充実をお願いしたい。 今年は3年ぶりにインターンシップが実施できたことはよかった、社会を見ることで仕事の意義や大切さを知るよい機会であるので、進路の意識付けに繋げるようにしてほしい。来年度も一次合格率の向上を目指してほしい。
			オープンキャンパスや説明会への参加を促し、早い時期から志望校対策ができるよう意識向上を図る。	A						
			就職選考試験一次募集での合格率９２％（昨年度）以上を目指す。	A						
		企業が求める人財の育成	進路希望を明確にし、実現するために求める人材や仕事内容等を考えさせる。	A	A					
			望ましい職業観・勤労観、及び職業に関する知識や技術を身につけさせる。	A						
			工場見学・職場見学等を十分に生かし、生徒が自分の適性に合った企業を選択できる能力を養う	A						
		社会常識とマナーの育成	社会常識を培わせ、「心のこもった挨拶」「感謝する心」「自ら環境整備（整理・整頓）を行える力」を育成する。	B	B					
			環境や目的に応じて自らの意思を相手に伝える力（コミュニケーション能力）の向上を図る。	B						
			インターネットを活用した企業情報、進学情報の収集等を行わせ、IT活用能力を育成する。	A						
	キャリア教育推進課	キャリア意識の向上	キャリアパスポートを日常的に活用させる方策を工夫する。	A	A	A		2年生は3年ぶりにインターンシップができ、その成果を1年生に報告する会をもつことができた。1年生はキャリア教育を一学期から実施することができ、早めの意識付けができた。 次年度の主な課題は、キャリアパスポートを見直し、3か年計画で学校行事の振返り等もさせながらキャリア発達を促進していくことである。またインターンシップや進路ガイダンスをより充実・発展させた内容にしていく。学年団と連携しながら共通理解のもとに進めていく。		
			キャリア教育計画に基づくＨＲ活動の体系化とさらなる充実を図り、１年生のときからキャリア発達を促進する。	A						
			インターンシップ等を工夫することにより、職業理解や自己理解を深めさせる。	A						
		進路実現に向けた学力の向上	朝課外の計画を明確にして運営する。公務員課外や進学課外をさらに充実化し、合格者増を目指す。	B	B					
			就職問題集やＳＰＩ問題集などの活用を図り、校内模試を発展し校外模試を積極的に活用し学力の向上を図る。	B						
			家庭学習の習慣づけに向けた方策を工夫する（大学進学希望者には早い時期に学習内容を確認させるなど）。	B						
企画部	企画課	他分掌との連携を深める	他分掌と連携をとり、組織的に学校行事等の運営を行う。	A	A	A	A	コロナ禍以前の形態へシフトしていく中で、企画課内で連携を図りながら実施に向けた準備を進めることができた。今後、アンケートや実施後の反省を踏まえて事績を残していきたい。 今年度は、様々な学校行事でPTAに参加を依頼し、協力を仰ぐことができた。次年度以降は、公開授業の計画など学校の教育活動全体を見ていただく機会を設けていきたい。 体験入学では、スムーズな対応がとれたとは言い難いところがあったので、組織的な運営に向けて教務部と更なる連携を図っていき、広報活動へ繋げていく必要がある。	A	コロナ禍ではあるが、ロードレースや体育祭、マラソン大会等の学校行事がPTAの参加・協力のもと実施できたことは良いことではないかと思う。 学校行事など学校の活動がホームページやインスタグラム等で分かりやすく外部に発信されてあり、旬な情報を取り上げることで学校のPR効果は高い。また、毎月第4金曜日にFMラジオ（FMたんと）に出演しているのは、生徒たちが自分たちで企画した番組ということもあり、教育的効果とともに、学校の広報にも繋がるため、今後も継続していただきたい。 中学校訪問も職員だけでなく生徒も訪問し近況報告をするなど積極的に実施されている。中学生体験入学については、3年生だけではなく、2年生にも拡大して実施されていることは、今後の生徒募集に十分に繋がるのではないかと思う。学校紹介パンフレットについては、誰に見てもらうのかを考え内容を工夫してほしい。 校内研修において、学習に関する研修は充実しているようであるが、生徒指導などの他の分野についても外部から専門家を招くなどして先生方の研修の充実をさらに進めていただきたい。
			学校行事等での実施案を早期に提示し、調整に余裕を持たせる。	A						
			各行事の実施後各分掌からのアンケートを取り、事績を残すことで次年度以降の活動へ繋げていく。	B						
		ＰＴＡ活動の活性化	ＰＴＡ活動を通じて保護者と学校との連携を深め、効果的な教育活動に繋げる。	A	A					
			学校行事等において、多くの保護者に関わっていただけるように早期の案内を徹底する。	A						
			定期的な役員会等を実施し、ＰＴＡ活動が円滑に運営できるサポートを行っていく。	A						
		学校行事等での広報活動を企画する	広報課と連携し、受検生増加に繋がる広報活動を企画する。	B	B					
			学校行事等の広報活動を積極的に行い、中学生・保護者・地域の学校理解を深める。	B						
			生徒育成部と連携して、生徒会活動も積極的に広報できる体制を構築していく。	B						
	広報課	WEB媒体の活用と外部連携によるPR活動の推進。	各種説明会の受付をWeb上で実施する。ホームページの積極的な活用を進め、閲覧件数の向上を図る。	B	A	A		本年度は、職員による中学校訪問を４回実施した。本校の特色ある教育活動を中学校の教職員へ伝えることができたが、中学生への説明までは不十分であった。説明資料やホームページの更新など広報活動の更なる充実を図っていく必要がある。 学校説明会においては、説明資料を更新して実施することができた。学校の良さをアピールするため各分掌と更なる連携を図り、本校生徒の取組みを共有していきたい。 体験入学においては、生徒の中学校訪問と連動させたが訪問時期の調整などで効果的な取り組みにならなかった。学年と連携を図り、より一層の充実に向けた計画を立てていく必要がある。		
			安全安心メールを利用してのホームページ・インスタグラム・ユーチューブにおける更新情報の共有を図る。	A						
			FMラジオなどの外部連携を積極的に行い、校外へのPR活動を推進する。	A						
		学校説明会・進路学習会の充実	中学校に対して効果ある広報を展開する。本校生徒の様子をA４シートにまとめ、効率よく中学校にアピールする。	A	A					
			中学生・保護者・中学校教員等への学校説明を効果的にアピールする。また、中学校における進路学習会を充実させる。	A						
			各科と連携して、中学校側からの要望に合わせて出前授業等を取り入れ、学校の特色を伝える。	B						
		県立高校合同説明会・体験入学の成功	県立高校合同説明会で、PR動画などを活用し本校ブースへの参加者を増加させる。	B	B					
			体験入学の取り組みの充実により、本校の魅力を体感させ、受検者数の増加につなげる。	B						
			体験入学における部活動の紹介をより一層充実させる。	B						
	研修課	研究授業・公開授業の計画実施	月１回程度の研究授業を取り入れ、職員相互の気づきや教務部との連携より授業改善活動に努める。	A	B	B		研究授業と合評会については、計画通り実施することができた。保護者や地域に向けた公開授業などを導入するなど広報活動との連動を考える必要がある。 校内研修においては、外部講師を招聘した研修会を実施できなかった。様々な機関と連携して、教職員の資質向上に向けた計画と実施を行っていく必要がある。		
			授業参観や公開授業等を計画し、保護者や地域に学校の活動状況を伝える機会を積極的に設ける。	B						
			全職員で授業を振り返る機会を設け、観点別評価の基準について考える場を設定する。	B						
		校内外研修の充実	各学期ごとに、外部の専門家を講師とした研修を導入する。	B	B					
			キャリアアップ講座への参加を積極的に呼びかけ、研修後に学校へ還元できる機会を設ける。	B						
			アクティブラーニングやＩＣＴ教材の利用等、学校目標を達成できる題材の研修を企画していく。	B						
		研究紀要の完成	各分掌や各科と連携し、計画的に研究紀要の作成ができる体制を構築していく。	A	B					
			教職員の様々な活動を積極的に促し、学校の特色を記録に残す。	B						
			職員全体で一つの取り組みを行い、その過程や結果を記録し学校の活性化につなげていく。	B						
1学年		教科指導 学ぶ姿勢と基礎学力の定着	基礎学力の定着に向けた指導の充実、教科担当者と連携を図りながら授業規律を確立し、成績改善を要する者０名を目指す。	B	B	B		教科指導では、大多数の生徒が、多くのことに挑戦し努力している反面、学習に向けての姿勢が確立されておらず、意欲が向上しない状況である。また、資格取得の取り組みが入り、部活動との両立が難しい生徒もいる。学習計画を立て、基礎学力向上と共に、資格取得にも力を入れていきたい。生徒の出席状況は良好であるが、一部の生徒が改善されていない。生徒への注意喚起や学年統一改善指導の徹底が必要である。 生徒指導では、、生徒育成部と連携しながら、様々な課題を抱える生徒に対し、早期の対応を行っている。しかし、高校生として望ましい態度が身に付いていない面も見られるため、継続的に指導し、規範意識の醸成を目指し、主体的に考えて適切な行動ができる集団づくりを更に強化していく。 ・進路指導では、進路指導部と連携し、早期に対策等を行ったことで、進路意識の高揚に繋がった。また、キャリアパスポートの充実に向けた改善を行うことができた。生徒の進路実現につながるような活用方法を今後工夫していきたい。 ・特別活動: 多くの学校行事において、それぞれがリーダーシップを発揮し、行動ができた。しかし、日頃の学校生活でその力を発揮させるまでには至らなかったので、行事以外でもリーダーシップをとれるよう指導の工夫を行っていく。	A	新型コロナの関係で、入学式も含め年度当初の指導が大変だったのではないかと思う。特に、体験活動では、実施形態を工夫して活動を行えたことは生徒にとって良かったと思う。今後も職員間の連携を図り、行事等の工夫改善を行い有意義な高校生活を生徒たちが送ることができるように指導をお願いしたい。 学校行事や資格取得、部活動など積極的に取り組んでいることが分かる。一つ一つの課題を一生懸命に取り組むことで更なる成長を期待したい。
			基本的な生活習慣の醸成に向けた声かけを行い、皆勤者１００名を目指す。	A						
			資格取得を推進し、意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせる。	B						
		生徒指導 自己指導能力及び思いやりの心の育成	個々の能力を最大限に生かして積極的にチャレンジする機会を設け、主体的に活動する生徒の育成を目指す。	B	B					
			学年やクラス、学科の団結力を高めるための貢献を積極的に促し、自分自身と仲間を大切にする心を育てる。	B						
			「立ち止まって挨拶」等を徹底し、教員が社会人としての範を示しながら、社会人としてのマナーを習慣化させる。	B						
		進路指導 進路意識の高揚とキャリア教育の推進	進路決定に関する資料、方法、情報の適切な提供に努めて、個に応じた進路指導を実践する。	B	B					
			将来を見据えた希望進路となるよう生徒・保護者と情報交換を密に行う。	A						
			キャリア教育や進路ガイダンスを充実させ、記録の活動のみに留まることなく、キャリアパスポートを用いて話し合うなどの学習過程に努める。	B						
		特別活動 学校行事・ホームルーム活動・部活動の活性化	学校行事を通して、自尊感情を高め、集団の中での社会性を身につけさせ、生徒とともに計画を進めていく。	B	A					
			伝統の継承と新しい取り組みを融合させ、活発的なホームルーム活動を行い、生徒の自発性・自主性を促す。	A						
			部活動への参加を奨励し、入部率８５％以上を目指す。	A						
2学年		教科指導 学ぶ姿勢と基礎学力の定着	授業を通して、授業規律・教科内容を身につけさせ、学習することの大切さを理解させる。	B	B	B		今年度については、教科・生徒指導面に大きな課題を残した。主たるものとして、授業規律・道徳指導・自発的に学習できないなどの主体性の問題があげられる。 授業規律については、生徒が成長を実感する授業とそうでない授業が少なからずあり、授業アンケートにもその数字が表れている部分がある。次年度については教員側のさらなる授業改善（特に観点別評価への対応）と、生徒への授業を受ける態度・取り組む姿勢・成長のための努力に対する意識付けを続け、就職試験や進学試験に挑む環境づくりをしていく必要がある。 道徳指導については、スタートから特別指導が続き、生徒の道徳的指導の必要性を実感した。そのためにも、我々大人である教員から正しく適切な振る舞いができるようになる必要がある。そのうえで、言葉や行動で生徒たちの道徳観や倫理観を育んでいくことが求められると考える。次年度は生徒たちとともに教員も成長し、よい終わり方のできる学年にしていきたい。 主体的な学習については、生徒会活動や行事に対する積極的な取り組みは見られたが、学習面については考査前にしかやらないなど主体的な学習にはつながらなかった。原因としては、自学の時間がなくなったことが大きい。次年度は社会科教室を自習会場に設定し、部活動を引退した公務員希望者・進学希望者・SPI等就職試験に筆記がある者の学習場所を確保する。彼らの学習する空気を各クラスに伝播してもらうことで、学年全体の学習意欲を上げていきたい。	A	本年度は、コロナ禍であったが、インターンシップや修学旅行を実施することができたことは、生徒たちにとって良かったと思う。特に、修学旅行は、生徒たちが楽しみにしていた学校行事の一つでもあり、クラスメイトとの友情を深めるとともに集団行動などの大切さを身に付けさせる教育効果が高いものと考える。 次年度は、進路決定の学年となるため進路実現に向けた取り組みに加え、最上級生として、部活動や学校行事などでリーダーシップを発揮して、充実した高校生活を送れるようさらなる指導をお願いしたい。
			基本的生活習慣の確立を促し、生活リズムを一定にすることで学校生活に集中させ、皆勤１００名以上を目指す。	A						
			自学の時間がなくなった分、自学自習の時間を自分から生み出せるように指導していく。	B						
		生徒指導 自己指導能力及び思いやりの心の育成	時を守り・場を清め・礼を正すというモットーのもと、挨拶励行・時間厳守・話を聞く態度などを身に着けさせ、集団で動く力を養成する。	B	B					
			個人面談やいじめアンケートを利用し、いじめ防止・早期発見・対応に努める。また、日常的な声掛けも積極的に行い、いじめのないクラスづくりを行う。	B						
			生徒たちを日ごろからよく観察し、生徒と教員の良好な人間関係の確立に努める。	B						
		進路指導 進路意識の高揚とキャリア教育の推進	中核の学年としての自覚を持たせ、主体的に行動できる生徒を行事等で積極的に採用し、リーダーを育成する。	A	A					
			インターンシップなどの進路学習を有効に使い、生徒の進路意識を向上させる。	A						
			保護者会などを有効活用し、生徒・保護者・教員の連携を強固にしたうえで双方納得のいく進路指導ができるようにする。	A						
		特別活動 学校行事・ホームルーム活動・部活動の活性化	ロードレース・インターンシップ・体育祭・修学旅行などの主要行事に真剣に取り組ませる。	A	B					
			学年のテーマである「知恵から感恩へ」のもと、感謝を意識した指導を行い、愛校心を育成し学校への所属感を高めさせる。	B						
			生徒主体で活動できる場を醸成し、生徒の主体性を育成できるよう工夫する。	B						

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
3学年	教科指導 学びに向かう姿勢の定着と学力の伸長の継続	学ぶことの意味を理解し学び方を学びながら、意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせるとともに、家庭での学習習慣の定着を目指す。	B	B	B	教科指導については、各教科担当との情報交換や連携がより重要であると実感した1年だった。例えば、進路決定に至る指導の状況やクラスの雰囲気を把握していることで授業の進め方や生徒へのアプローチが変わってくるということである。様々な進路決定に向かう状態を理解したうえで授業とのつながりを深めていくことが進路決定のみならず、その後の学習の動機付けにもつながっていくので、効率の良い意味のある情報提供を心がけていく。 生徒指導については、生徒の主体的な取り組みのサポートと様々な特徴を持つ生徒の理解、教職員への信用・信頼づくりが重要度を増している状況にある。そのために、生徒の本質的な理解や実体の把握が必要不可欠であるが、実現するには教師と生徒との間に適切な人間関係の構築していくことが重要なのですがは信頼関係をどう築いていくかを全体で確認・共有していく。 進路指導については、進路指導部を中心に各担当からのサポートもあり、手厚い指導をいただけていた。今年の状況を振り返り、続けていくことと変えていくことを整理して次年度に継承していく。 特別活動については体育祭を中心として主体的な取り組みができていた。ゼロベースでやれたメリットとデメリットと両方あったが、新しい形を提示できたことは大きかったと思う。行事についても、振り返りをきちんと行い、続けることや変えることはもちろんだが、目的が何にあるかをしっかりと見据えたうえで削減すべきところは削減することが質の高い行事を行っていくうえでは重要である。全員が楽しめる行事なのか、時間的に無理・無駄はないかなどを関係者全員で確認してよりよい行事を創っていく。	A	A
		担任と教科担当者との情報交換を密に行い、一人ひとりに確かな学力を定着させ、成績改善を要する者を０にする。	B					
		各種テストの結果を適切に振り返り改善を重ねることで、自分自身で学びを継続できる力を身につけさせる。	B					
	生徒指導 学校行事の成功と円滑な人間関係の構築	生徒の意見や考えを取り入れながら生徒主体の学校行事になるようサポートする。	A	A				
		生徒と教師との人間関係の確立に重点をおき、誰にでも適切な配慮ができる生徒育成に力を入れる。	B					
		様々な特徴を持つ生徒同士が協力しやすい雰囲気・仕組みを作り、経験を通して成長を促し、適切にサポートできる体制を整える。	A					
	進路指導 社会性の涵養と進路実現に向けた取組の実践	社会人としての常識やマナーを身につけさせるとともに、速やかな情報提供を行いながら進路指導を進めていく。	A	A				
		生徒一人ひとりが納得の行く進路決定となるよう生徒・保護者と情報交換を密に行い、適切な指導を実践する。	A					
		学校や社会での問題を自分のこととしてとらえ、よりよい社会の一員として必要な知識・スキルを身につけさせる。	B					
	特別活動 学校行事や部活動の活性化	最高学年として、各クラス・各学年・各科の生徒が連携しあえる体制づくりに努め、具体的な形にする。	B	B				
		伝統の継承と新しい取り組みを融合させ、学校行事や部活動の活性化に繋がるよう生徒とともに計画を進める。	A					
		学級や学校の仕組みを正確に理解し、よりよい改善に向けて行動ができる生徒を育成する。	B					
電気科	規範意識を持ち、自立性と発想性の育成	広報活動を活発に行い、受検希望者を増やす。（ＨＰの見直し、出前授業、中学校訪問、企業との連携、塾訪問 等）	B	B	A	広報活動において、今までのものに加え現代に合った効果的な方法を導入していく。また、HPの更新頻度の向上を目指す。(積極的な広報活動への取り組みを行う) 資格取得については、各学年で全員受験が多いので科全員でのフォロー強化の必要性がある。そのためにも合格のための勉強法などを科で共有する。第2種電気工事士　30/38名（合格）　第1種電気工事士　7/33（筆記合格）合格者数を増やす取り組みを行う。電気工事士以外の検定合格者が他学科と比べて低いため、合格者数を増やすための資料や対策などを改善して生徒に合わせていく必要がある。 進路状況では全体的に良好であるが、次年度は生徒数も増えるので、今年度よりも時間配分に注意が必要となる。また、生徒に社会人となるための意識の改善が必要で就職試験に向けた言葉かけが必要となる。第1希望への進学、就職率を向上させるために早期に取り組みを行っていく必要がある。	A	A
		基本的生活習慣の確立をめざし皆勤の生徒を増やす。特に欠席・遅刻 等が多い生徒は、科で指導する。	B					
		学習活動、部活動、学校行事等全てにおいて文武両道で活躍する。	A					
	自学自習の定着と自宅学習の習慣化の定着と解決と創造の能力の向上	検定試験（計算技術検定・情報技術検定など）の合格者数を上げ、自己分析させ自主的な学習の仕方を学ばせる。	B	A				
		第一種電気工事士と第二種電気工事の合格者数をさらに増やす。 ※昨年度：第一種電気工事士合格者４名　第二種電気工事士合格者３１名	A					
		ものづくりを通して調査研究や考えることの大切さに気づかせるとともに創造力や表現力を身につけさせる。	A					
	充実した進路指導により進路決定100%を早期に達成	第一希望１００%の進路実現を目指し、科の職員全員でサポート指導を行う。	A	A				
		就職試験での一次合格率９０%以上を目指す。	A					
		進路指導の充実を図り、進路決定率１００%を昨年より早めの達成を目指す。	A					
電子機械科	進路実現を目指した検定・資格取得の推進	資格･検定試験へ生徒自らが主体的にチャレンジし，ジュニアマイスター認定３０名以上（昨年４１名）をめざす。	A	A	A	資格･検定試験へ積極的に挑戦する姿勢は大きくジュニアマイスター認定数も一定の成果を上げている。1年次より努力することの大切さを伝え、生徒自らのキャリア形成にも繋げることができた。実習における安全教育6Sを徹底し、怪我・事故0を達成することができている。 しかし、実習・座学との連携を図る上で、ICT機器を用いた視・聴覚的な指導というものが、今後の指導の在り方の一端になるのではないかと考える。また、生徒一人一人の能力に合わせた指導も課題として挙げられるため、指導する側も個から集団へ変化する必要性を感じる。 定期的に科会議を行い、職員間の情報共有を行うことで積極的な生徒指導を行うことができた。しかし、遅刻・欠席や長期的に欠席をしている生徒もいるため、さらに情報共有を密に行い、生徒に寄り添う指導を行う必要がある。	A	A
		専門性の高い知識と技術の深化･統合化を図るとともに、学ぶ意欲や基礎学力の向上を図る。	B					
		進路実現を目指し、１年次よりキャリア教育を体系的・系統的に推進し、努力し続ける姿勢を養う。	A					
	ものづくりを通した学習指導	ものづくりコンテスト・溶接競技会の上位入賞および、技能検定（機械検査・熱処理）の取得を目指し、技術力の向上や知識の定着を図る。	A	A				
		実習などのあらゆる機会において、安全教育における６Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔・作法・安全）の徹底を図る。	A					
		ＩＣＴ機器の活用を積極的に行い、視て・聴いて・対話して学ぶことで、学習意欲の向上を図る。	B					
	あらゆる機会を捉えての生徒指導	基本的生活習慣を確立し、遅刻・欠席を減らす等、日常の中で指導し、皆勤者８割以上を目指す。	B	B				
		礼儀正しく元気な挨拶、服装・頭髪を整えることで、三池工業生としての規範意識を身につけさせる。	B					
		科・系職員間での情報交換を密にし、生徒理解に努め、積極的で横断的な生徒指導を行う。	A					
情報電子科	規範意識の醸成に向けた指導	規則正しい生活習慣と毎日の体調管理を意識させ、皆勤率８５%を目指す。	B	A	A	規範意識の醸成については、皆勤率を上げ、規則正しい生活習慣や体調管理の徹底ができるように指導を行っていく。情報共有については科会議のみならず密にし、今後も科全体で生徒対応できるようにしていきたい。 資格取得については、3年生のジュニアマイスターは学級全員取得することができた。クラス受験の資格については、全員合格を目標に取り組んできたことで進路実現に繋げることができた。今後は、取得した資格の活用した仕事をインターンシップや工場見学等で理解させ、進路先を決める一助にできるようにしたい。 進路については、就職、4年制大学等生徒の望む進路実現を 行うことができたが、高専編入合格できた生徒はいなかった。次年度は専門教科の理解度を上げるためにICT機器を活用し、より高い専門知識を持って就職・進学できるように実習・座学を行っていかなければならない。	A	A
		時間の厳守・身だしなみ・清掃・挨拶・言葉使い等の徹底した指導を行う。	A					
		科会議において、担任や副担任等との情報共有を徹底し、組織的に指導を行う。	A					
	基礎学力の向上と目標の進路実現	1学期1回以上の面談を行い、個人に合った学習法を提示し、基礎学力の向上を図る。	A	A				
		明確な進路目標を持たせ、キャリア教育を通して目標実現のための計画と取組みを実行させる。	A					
		資格取得を通して目標を設定し、計画的に学習する習慣を醸成する。	A					
	企業が求める人財の育成	実習、課題研究、資格取得等で基礎的・基本的な専門技術や技能を身につけさせ、２，３年生技能士学級全員合格を目指す。	B	B				
		企業情報収集能力の育成を行い、企業が求める人材をよく理解させ、第一希望進路１００%を目指す。	B					
		インターンシップや工場見学等を通して、社会人になるにあたっての心を養う。	B					
土木科	学習に対する意欲関心を高める。	グループ学習やアクティブラーニングを通して生徒を主体とした授業展開に努める。	B	A	B	電子黒板が導入され教室での授業の幅は大きく広がった。実習棟には、電子黒板がないためｸﾛｰﾑﾌﾞｯｸを活用するなどして効果的な実習につなげていく必要がある。 1学年が新しい制服となり着こなしやネクタイの着用を通常の生活の中でしっかりとできるように全職員が共通理解のもと指導していく。 今年初めて測量士補全員受検を行い、結果を残すことができなかった。しかし、難易度の高い資格に対する学習意欲の向上が見られた。次年度は、更に指導方法を研究し合格を目指す。 工場見学やインターンシップを通して、土木専門職に対する意識の向上を図ることができ仕事内容を考え進路選択をする生徒が増えた。高度熟練者による実技指導では、実践的な技術と知識に触れることで勤労・職業意識を向上させることが課題である。	A	A
		資格取得や進路実現の為の指導方法の充実を図る。	A					
		職員の専門教科における情報の共有や指導方法の研究を行う。	A					
	基本的生活習慣を確立し、工業人として誇れる生徒の育成に努める。	遅刻、欠席、早退を減らし皆勤者８０%を実現させる。	B	B				
		時間厳守と身だしなみの指導を徹底する。	B					
		社会的なマナーに則った行動や言葉使いのできる生徒を育成する。	B					
	国家資格の取得やものづくり教育の充実に努める。	インターンシップや現場見学等の職場体験を充実させ、土木職に対する意識の向上を図る。	A	B				
		高度熟練者による実習指導を活用し、生徒の勤労観・職業観を育成する。	A					
		ものづくりコンテスト（測量部門）上位入賞を目指す。	C					
工業化学科	基本的生活習慣と規範意識の確立	基本的生活習慣を確実に身に着けさせ、遅刻・欠席を減らし、皆勤率７５%以上を目指す。	B	A	A	就職試験においておおむねが内定できた。しかし、危険物取扱者乙種第４類に合格できていない生徒もいるので、その点が課題である。 社会基盤系の工業化学科選択者は17名となった。授業・実習等での指導、中学校へのアピール等学科としての取り組みを続けたい。 高度な資格取得の指導について取り組んでいるので、今後も組織的・系統的な指導を続けていきたい。 「ものづくりコンテスト福岡県大会化学分析部門」では第9位であった。本年度の反省点を踏まえて練習に取り組み、次年度に向けて指導体制のさらなる構築を図っていきたい。	A	A
		頭髪服装，挨拶や言葉使い，時間厳守など規範意識と礼節を重んじる態度を育成する。	A					
		生徒が学校に誇りを持ち、意欲的な学習態度が育成されるよう、科の職員全員で指導に取り組む。	A					
	確かな学力の育成と進路実現に向けたキャリア教育の充実	授業・実習・課題研究の改善に積極的に取り組み、主体的・対話的で深い学びと基礎学力の向上を目指す。	A	A				
		面談・面接指導等、生徒の希望と適性に応じた進路指導を充実させ、進路実現（第一希望１００%）を目指す。	B					
		１年生からキャリア教育を体系的・系統的に推進し、進路目標に向けて努力する学校生活の実現を目指す。	A					
	創作工夫と主体的な行動のできる化学技術者の育成	中学生へのアピール、１年生への指導と学科編成に向けてのアピールを充実させ、工業化学科の希望者を増やす。	A	A				
		資格取得、検定試験合格において組織的・系統的な指導を推進し、危険物取扱者・高圧ガス製造保安責任者、各種検定の合格者を増やす。	A					
		ものづくりコンテスト福岡県大会化学分析部門において、科の職員全員で指導を行い優勝を目指す。	B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- 基礎学力及び学ぶ意欲の向上：授業におけるICT活用による授業改善を推進し、基礎学力の定着を図る。また、観点別評価における評価規準の明確化を行い充実を図る。
- 主体的活動の推進：生徒会活動・部活動・ものづくり活動の活性化を図り、生徒が自ら課題を見い出し解決策を考え積極的に行動できる力を養う。
- 自己指導能力の育成：日々の教育活動を通して、規範意識を高め、自らを律し行動できる生徒を育成する。
- 進路指導の充実：キャリア教育の充実を図り、早期に進路に対する意識付けを行うことで、学校生活に目的意識を持たせ、自らの意志と責任で進路を選択し決定する力を身に付けさせる。
- 広報活動の充実：HPやインスタグラム、中学校進路説明会、FMラジオ（FMたんと）など広報活動を積極的に行い、地域や保護者が学校の教育活動に対して理解していただくことで中学生の志願希望者の増加に繋げる。
- 地域貢献活動等の充実：ものづくりの専門高校としての特色を生かし、生徒が主体となり積極的な地域貢献活動に取り組めるように指導と支援を行うとともに関係機関との連携を推進する。

評価項目以外のものに関する意見

- HPの充実と学校PRの推進
- ものづくり活動を通した地域貢献ができる取り組みの推進
- 基本的生活習慣の確立と生徒の規範意識、帰属意識及び自尊心の向上
- 部活動の活性化に向けた取り組み
- 一人ひとりの生徒に対するきめ細かな指導